

4 学年 社会科学習指導案

指導者 松村一秀

1 小単元名

残したいもの、伝えたいもの ～未来へ繋ごう、人々の思い～

2 単元について

(1)教材観

本単元は第4学年の内容(4)のア(ア)(ウ)、イ(ア)に関わる学習である。地域に伝わる祭りや行事などの伝統や文化を取り上げ、人々がそれらを受け継ぎ、発展させようとしていることに気づき、地域の伝統や文化を大切にしようとする意識をもてるようにすることが本単元のねらいである。

川越まつりについては、江戸時代から続く祭りが、地域の人々の努力と工夫によって今日まで受け継がれてきたことを理解できるようにする。囃子方や町方、鳶職など多くの人々が、それぞれの役割を果たしながら協力して祭りを支えていることに気づかせる。また、他の地域で行われていた祭りがなくなっていった事例と比較することで、川越まつりが今も続いている理由を考えられるようにする。さらに、取材や体験活動などを通して、地域の人々の思いや願いに共感し、自分たちの住む地域の文化について調べ、まとめていく。

(2)児童観

本学級の児童は、社会科に興味をもち取り組んでいる。自分の考えや意見を友だちに伝えることや、発表をすることに意欲的な児童が多くみられ自分で考えたことをペアやグループで交流することで、さらに自信を持ち発表している様子が見受けられる。川越まつりについては、実際に行ったことがある児童は7人である。また、ふじみ野市の伝統的なお祭りや行事については、地域の天王様を知っている児童が4人、ふじみ野のお囃子を知っている児童は5人となった。全体的に伝統的なお祭りや行事を知っている児童が少ないということがわかった。一方で、今後伝統的なお祭りや行事に参加してみたいと答えた児童は18人であった。

以上のことから、本単元は、郷土の伝統や文化の背景にある先人の思いや願いをくみ取り、学習を進めていくため、実際に見えない部分を自分たちの経験や知識と結び付けて読み取る必要があるため、手立てを工夫していく必要があると考える。

(3)指導観

指導に当たっては、「川越まつりはだれがどのように受け継いでいるのだろう」という学習問題を設定し、2つのサイクルを通して考察を深められるようにする。児童が、地域の祭りや伝統芸能に関心をもち、地域の人々の思いや努力に気づき、地域文化を大切にしようとする意識をもてるようにすることをねらいとする。

第1サイクルでは、川越まつりを取り上げ、昔と今の写真や映像、他地域の祭りとの比較などの資料を活用しながら、長く続いてきた理由を考えられるようにする。地域の特色としての川越まつりの魅力に気づかせるとともに、変わらず続けるために多くの人々が関わっていることを理解できるようにする。

第2サイクルでは、ふじみ野市に伝わる囃子連を取り上げ、地域の人々が伝統を守り受け継いでいる様子を、取材や体験活動を通して理解できるようにする。囃子方の練習や祭りへの参加の実際に触れることで、地域の人々の思いや願いを実感させ、伝統を受け継ぐことの大切さを自分なりに考えられるようにする。

3 本授業・本小単元の見どころ

・2サイクルの学習過程（本小単元）

①川越まつり⇒②地域のお囃子と扱うことで、一般化・自分事化する。

・学習問題を引き出すための資料（本授業）

①川越まつり動画を使うことで祭りの全体像をつかみ、川越まつりを知らない児童も学習に取り組めるようにする。また、人に焦点をあてることで、関わる人達の存在に気付かせる。

②100年前と現在の山車の比較⇒変わらないことに気づかせ、歴史に視点がむくようにする。
(本授業)

・グループで思考ツールを使い分類する活動を通して、学習に関わる疑問を考えさせる。

4 小単元の目標と評価規準

(1)目標

川越市で行われている川越まつりについて、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、見学調査したり地図などで調べたりして、年表にまとめ、祭りの様子を捉え、取組の変遷や人々の生活の様子の特徴を比較・関連付けて考え、川越まつりは、地域の人々が受け継いできたことや、地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに、学習問題を意欲的に追究し、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって地域社会の一員として、自分たちにできることを協力しようとする態度を養う。

(2)評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景や現在に至る過程、保存継承のための取組などについて必要な情報を集め、読み取り、県内の文化財や年中行事の様子を理解している。	①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して問いを見出し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現している。	①県内の伝統や文化、先人の働きについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②見学・調査し地図などの資料で調べたことを、年表や文などにまとめ、地域の人を受け継いできたことや願いが込められていることを理解している。	②川越まつりとふじみ野市のお囃子について、学んだことを総合して、人々の願いや努力について考えたり、学習したことを基に社会へのかかわり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	②学習したことをもとに、県内の文化財や年中行事を守り受け継ぐために自分たちができるところを考えようとしている。

5 小単元の指導計画・評価計画（10時間扱い）

過程	○学習活動 ・学習内容	【評価の観点】内容〈方法〉	資料等
つかむ	<p>① 県内の古くから続いてきた文化財や年中行事について調べる。また、全国の消滅しかけている伝統行事について調べ、Yチャートに気づきや思いを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県の中行事、文化財⇒有形・無形文化財 ・消滅しかけている年中行事や文化財 ・Yチャート(見た、聞いた、思ったの視点でまとめる) 	<p>【思・判・表①】消えてしまった祭りについて考えている。〈発言・ノート〉</p>	<p>□埼玉県公式観光サイト</p> <p>□地域文化遺産ポータル</p> <p>□Yチャート</p>
	<p>② 川越まつりについて資料をもとに調べ、気が付いたことを話し合い、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川越まつりの概要(山車・お囃子) ・昔と現在のまつりの様子の比較 ・ユネスコ無形文化遺産 ・Xチャート⇒調べる視点(いつ、だれ、どうやって続けてきたか、思いなどに分類) ・学習問題を立てる 	<p>【態①】川越まつりについて資料をもとに調べ、学習問題を立てている。〈発言・ノート〉</p>	<p>□川越まつり動画</p> <p>□スクールタクト比較写真、無形文化遺産</p> <p>□Xチャート</p>
<p>学習問題1 とだえてしまう祭りもあるのに、なぜ川越まつりは続いてきたのだろう</p>			
調べる	<p>③ 川越まつりの歴史的背景や現在に至る経緯、関わる人について資料(年表)や図から調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川越まつりの起源、例大祭、神幸祭 ・大火や戦争などを乗り越えた ・まつりに関わる人⇒囃子方、職方、町方 ・Xチャート 	<p>【知・技①】川越まつりについて情報を集め、読み取り、様々な人々が保存継承に関わってきたことを理解している。〈発言・ノート〉</p>	<p>□副読本年表</p> <p>□山車曳航図</p> <p>□Xチャート</p>
	<p>④ 囃子方や町方へのインタビュー動画などから、保存継承の工夫や思いを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・囃子方の工夫・思い⇒道具、囃子の技術、募集 ・町方の工夫・思い⇒協力依頼、募集 ・Xチャートを整理・完成 	<p>【知・技②】地域の人が受け継いできたことや願いが込められていることを理解している〈発言・ノート〉</p>	<p>□副読本動画</p> <p>□Xチャート</p>

まとめ	⑤ これまでの学習を学級全体で振り返り、学習問題の結論を導き出す。 ・これまで調べてきたこと	【思・判・表②】川越まつりの保存継承の取り組みに着目し、関わる人の工夫や思いを考え、表現している。〈発言・ノート〉	<input type="checkbox"/> X チャート
	学習問題1の結論 川越まつりは、地域の人々が協力したり、技術を若い人に教えたりすることで、受け継がれてきた。それは、まつりを次世代に残したいという地域の人々の思いや誇りが受け継がれてきたからである。		

つかむ ②	⑥ 1 サイクル目の学習をもとに、ふじみ野市で行われているお囃子との共通点を考える ・ふじみ野の伝統芸能について知っていること ・大井上組囃子連⇒大井まつり、大井氷川神社の天王様 ・Tチャートで川越まつりとふじみ野の囃子連を比較し、予想する ・学習問題を立てる	【態①】 川越まつりとふじみ野の囃子を比較し、予想をたてている。〈発言・ノート〉	<input type="checkbox"/> 大井まつり ポスター <input type="checkbox"/> 大井上組囃子連山車の写真 <input type="checkbox"/> Tチャート
	学習問題2 地域のお囃子は、どのように受け継がれているのだろうか。		

調べる ②	⑦ 体験会・インタビューの準備を行う。 ・グループで聞きたいこと ⇒視点は川越のXチャートを参考にする ・全体で共有 ・予想 ・マナーや礼儀、流れ	【思・判・表②】 既習事項を生かし、学習の視点に沿った質問を考えている。〈発言・ノート〉	<input type="checkbox"/> X チャート
----------	--	--	---------------------------------

	⑧ 大井上組囃子連の方をお呼びして、体験会・インタビューを行う。 ・お囃子の体験、道具の見学 ・グループ毎にインタビュー	【態①】 自ら体験したり、インタビューをしたりして学習問題を解決しようとしている。〈発言・ノート〉	
--	--	---	--

まとめ	⑨ これまでの学習をふりかえり、川越まつりとふじみ野のお囃子の共通点や違いについて話し合う。 ・インタビューのふりかえり⇒Xチャート ・川越まつりとふじみ野のお囃子のXチャートを比較⇒思い、工夫、歴史などに共	【思・判・表②】 思考ツールを用いて川越まつりとふじみ野のお囃子2つを比較し、共通点を見つけている。〈発言・ノート〉	<input type="checkbox"/> X チャート
-----	--	--	---------------------------------

②	通点がある		
	<p>学習問題2の結論 ふじみ野市のお囃子も技術を受け継いでいる。また、次の世代に残していきたい、地域を盛り上げたいという思いが受け継がれている。</p>		
い か す	<p>⑩ 前時までの学習や体験の振り返りをしてしながら、地域の伝統行事を未来に残すために何ができるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじみ野のお囃子の魅力⇒思いや歴史など ・残すためにできそうなこと⇒伝える、参加する広める、守るなどの視点を可視化する ・表現方法を考える⇒ポスター、宣言カードなど 	<p>【態②】 地域の伝統行事に対して思いを持ち、自分事として行動しようとしている。〈発言・ノート〉</p> <p>【思・判・表②】 伝統行事を未来に残すためにできることを考え、選択・判断し、表現している。〈発言・ノート〉</p>	<p><input type="checkbox"/>X チャート</p> <p><input type="checkbox"/>動画</p>

6 本時の学習指導（2 / 10時間）

(1)目標

川越まつりについて資料をもとに調べ、学習問題をつくり、追究・解決しようとする態度を養う。
【学びに向かう力、人間性等】

(2)展開

主な学習活動 ・ 学習内容	・ 指導上の留意点 評価 〈方法〉	資料等	時間
1 前時の振り返りを行う。 ・ 蘇民祭 ・ 県内の文化財の状況	・ 「つかむ」の学習過程を意識できるようにする。 ・ 伝統行事や文化財の中にも途絶えてしまうお祭りがあることを想起し、継承することの難しさに気付けるようにする。	<input type="checkbox"/> 写真	2
2 実際の川越まつり→見た経験などを話し合う。 ・ 世界遺産 ・ 山車・お囃子・的屋さん	・ 世界に認められている祭りが近隣にあることを知ること、学習意欲を喚起する。 ・ 実際の経験を生かし、疑問につながるようにする。	<input type="checkbox"/> 写真	3
3 課題を提示する。			2
川越まつりについて調べ、学習問題をつくろう。			
4 川越まつりの動画を見て、気がついたことを話し合う。 ・ お囃子・山車 ・ 着物をきている人がいた ・ 楽しく盛り上がっていた	・ 児童が自由に気づきを出せるよう、音や衣装、人の様子などに注目させる。 ・ 川越まつりを知らない児童も、概要がわかるように指導する。 ・ たくさんの人が関わっていることが気付けるようにする。	<input type="checkbox"/> 動画	5
5 今と昔の山車の写真を比較する。 ・ 100年以上前と変わらない山車 ・ まつりの歴史は370年以上	・ 写真を比べ人々の様子や町並みは変わっているのにも関わらず、祭りの形は100年も変わっていないことに気付けるようにする。	<input type="checkbox"/> 副読本 写真 <input type="checkbox"/> スクリーン タクト	8
6 グループで話し合い、疑問を集約し分類する。	・ 個々の疑問を集約できるように、机間指導を行う。	<input type="checkbox"/> スクリーン タクト	10
7 視点をもとに学習問題をたてる。	態① 川越まつりについて資料をもとに調べ、学習問題をつくり、追究・解決しようとする態度を養うことができる。〈観察〉		10
とだえてしまう祭りもあるのに、なぜ川越まつりは続いてきたのだろう。			
8 学習計画をつくる。 ・ 方法 ・ 視点			5

板書計画

